

特別支援学校における取組

特別支援学校においては、1対1の個別指導だけでなく複数の教師により学習指導が展開されることが多い。一貫性・継続性のある指導・支援を展開していく上で、学級担任だけでなく他の教師と連携して効果的に学習指導を行うためのチーム・ティーチングの在り方が課題となっている。

そこで、特別支援学校における取組では、特別な教育的ニーズのある児童生徒との学習指導を行う上での教師間の連携の進め方などを中心に紹介する。

1 授業づくりのための打合せの工夫

(1) 指導略案の活用

限られた時間の中で授業づくりに関する打合せを進めていくために、F特別支援学校においては、授業の打合せがスムーズにいくようにチーフの教師とサブの教師の動きのポイントを明確に示した指導略案を用意し、共通理解を図っている。その中で、授業におけるねらいについても確認し合うようにしている（表8）。

(2) 児童生徒の目標等の共有

打合せを進めていく上で、「個別の指導計画」から児童生徒一人一人の個人目標等を確認しておくことが必要である。G特別支援学校では授業前に「個別の指導計画」から本時の授業にかかわる児童生徒の個人目標を一覧にして相互に確認したり、その児童生徒の実態に応じた指導の手だても教師間で共有したりしている。

表8 サブの教師（ST）の動きを明示した指導略案

小学部生活単元学習 単元「修学旅行に行こう」

日 時	平成21年〇月〇日（〇） 第〇校時		
本時のねらい	修学旅行に関する絵本の読み聞かせや歌遊びを取り入れながら、修学旅行に関する意欲を高める。		
学習活動	指導上の留意点	STの動き	備考
1 始めのあいさつ	・当番の児童を指名をする。	・当番の児童への意欲付けを行う。	キーボード 歌詞 写真
2 修学旅行の歌	・修学旅行の歌を歌うことにより、これから修学旅行の学習への意欲付けを図る。 ・児童一人一人の表情に気を配り、必要に応じてSTにその様子をさりげなく伝える。	・（A教諭）伴奏の準備と伴奏をする。 ・（B教諭）歌詞カード、写真等の準備をする。 ・児童の声に合わせて、元気づけを盛り上げる。	

2 授業場面におけるチーム・ティーチングの実践

複数の教師によるチーム・ティーチングを進める上では、1時間の授業における指導目標を共通理解し、チーフの教師とサブの教師の役割をお互いが確認することが求められる。以下は、G特別支援学校におけるチーフの教師とサブの教師の役割を明確にして学習指導を進めている実践例である。チーフの教師は、学級全体を見ながら授業の流れに気を配るとともに、個別的な指導が必要な場面では、サブの教師と連携しながら指導を進めている。

(1) 高等部1年〇組 男子4人 女子0人 計4人

(2) 指導者 2人

(3) 生活単元学習 単元「1学期のまとめ」

— 本時の目標 —

- 自分で立てた1学期の目標について、5段階で評価する。
- 友達のよかった点（目標の達成度）について評価し、ワークシートに記入する。

(4) 本時の実際 (CT ; チーフの教師, ST ; サブの教師 ; ST の役割)

段階	主な学習活動	指導上の留意点				備考
		生徒A	生徒B	生徒C	生徒D	
導入 (7分)	1 始めのあいさつをする。	CT 全体に対し、姿勢の保持を促したり、大きな声であいさつしたりするように言葉掛けをする。 				姿勢保持の配慮 ・ 発言の促し
	2 本時の学習内容を確認する。 1 学期の反省をしよう。	CT めあてカードを見せながら、全員で本時の目標を読むように指示し、本時の学習について確認させる。 ST 生徒Dに対して、めあてカードを見るように促すとともに、生徒全員と一緒に本時の目標を読む。				めあて 注意・集中の促し ・ 理解を促す 演示
展開 (28分)	3 反省の方法について知る。 ① ワークシートに目標に対する評価を5段階で記入する。 ② 友達のよかったところをワークシートに書いて渡す。	CT ・ 反省の手順と方法を書いたカードで黒板に掲示し、一つ一つ手順等を確認させる。 ・ 方法について生徒が理解できたか挙手を促す。 ・ 十分に理解できていない様子が見られたら、個別に対応する。 ・ 5段階で評価することを確認させる。 ST 生徒Dへの指導後、必要に応じて他の生徒へ補足説明をする。 ST 机上に手順カードを置き、補足説明をする。				カード 手順カード ・ 注意・集中の促し ・ 補足説明 ・ CTのサポート
	4 自分の目標について評価をする。 評価の段階 1 全然できなかった。 2 たまにできた。 3 できたり、できなかったりであった。 4 ほとんどできた。 5 完璧にできた。	CT ・ 評価の段階は黒板に絵カードで提示する。 ・ 1 学期の目標が複数ある生徒に対しては、一つに決めるように促す。 ・ 机間指導を行い、生徒全員の進捗状況を把握しながら、特に生徒A・Bへの指導を行う。 ST ・ 事前に終了時間を伝え、時間内に終わるよう見通しをもたせる。 ・ なかなか評価できない場合は、1 学期の具体的な様子等を伝える。 ST 生徒Cに対しては、姿勢への配慮を行い、使いやすい筆記具やシール等を用意する。 生徒Dに対しては、確認しながらワークシートに記入させる。				ワークシート 書字動作の補助 ・ 活動の補助 称賛
	5 友達のよかったところを記入して友達に渡す。 	CT ・ 友達の評価をするときは、教室に掲示してある友達の目標が達成できたかどうかで判断させる。 ・ 机間指導を行い、生徒全員の進捗状況を把握しながら、特に生徒A・Bへの指導を行う。 ST ・ 事前に終了時間を伝え、時間内に終わるよう見通しをもたせる。 ・ なかなか評価できない場合は、1 学期での具体的な様子等を伝える。 ST 生徒Cに対しては、誰に渡すか確認してからその友達に言葉を掛けるよう促す。 生徒Dに対しては、友達の写真を載せたワークシートを用意し、確認しながら記入させる。				ワークシート 活動の補助 ・ 理解を促す 支援 称賛
	6 1 学期の反省を発表する。	CT ・ 一人ずつ自己評価と友達の評価を発表させる。 ・ 発表者に注目させる。 ST 生徒全員に対して、発表者を見るように促す。				注意・集中の促し ・ 雰囲気の高まり 称賛
終末 (5分)	7 本時のまとめを聞く。					
	8 終わりのあいさつをする。	CT 全体に対し、姿勢の保持を促したり、大きな声であいさつしたりするように言葉掛けをする。				

3 授業評価のための工夫

(1) 「気付き表」の作成

G 特別支援学校においては、授業評価の工夫として、毎日の授業を振り返り、次の授業改善につなげるために、表 9 のような授業評価の観点を設定し、「気付き表」として教師がそれぞれ授業後に記入し、集約する形式をとっている。

そして、教師の気付きを基に授業者は次時の授業改善に役立てている（図 21）。G 特別支援学校では、各授業で集約された「気付き表」を整理し、指導・支援の手だての検討に生かすとともに、単元・題材の目標や指導内容等の改善にも生かそうとする研究に取り組んでいるところである。

表 9 授業評価の観点

観 点	項 目
単 元 題 材	- 単元、題材の目標や学習内容は児童生徒にとって適切であったか。 - 他教科、領域との関連はどうか。
支 援	- 教師の働き掛けは適切であったか。 - 教材・教具等は適切であったか。
その他	児童生徒の活動の様子はどうかであったか。

気付き表		教科名 保健体育 題材「ポートボール」	高等部 1 年
10月〇日	本時 1 / 8		
主な学習場面	気付き（有効だった支援【○】、課題点【△】など）		
1 ルール、チーム編成の説明	- 事前にファールになるプレイについて、具体的にモデルを示して説明していたことはよかった。ファールになるプレイをしないように注意している生徒の姿が見られた。 支援(○) - 最初にゴール担当の生徒に対して、ボールの投げ方を実演していたことがよかった。そのことでゲームでは、生徒が投げる力の加減や投げ方を考えてプレイする姿が見られた。 支援(○)		
2 試行的なゲーム	- ルールの正確な理解が困難な生徒に対しては、丁寧にルールの理解を促す手だてが必要である。 支援(△) - 同じ生徒ばかりにボールが集中していたので、ゲームの中でできるだけ多くの生徒にボールとかわることができるよう手だてが必要である。（特別ルールを設定をしてはどうか） 支援(△) - ゴール担当の生徒も積極的にゲームに参加でき、全体的にも生徒の笑顔が多く見られた。 その他 ・ 生徒の姿 (○)		
次時の授業に向けて (主な改善点)	- ルールの理解が必要な生徒に対しては、STが中心になり、場面に応じて個別的に生徒にかかわるようにする。 1 チームの人数を少なくして、短い時間で交替しながら数多くゲームをするようにする。 - ゲームに主体的に参加できるようにするために、生徒自身で作戦を考えさせる時間を確保する。 - 反則のプレイについては次時も具体的に示し、危険なプレイがないように配慮したい。		

図 21 「気付き表」を基にした授業改善

(2) ビデオによる授業分析

F 特別支援学校では、日々の授業における授業者自身の動きや児童生徒の活動を客観的に振り返るために、授業の様子をビデオに記録し、複数の教師で分析する取組を行っている(写真17)。

ビデオによる授業分析において、1時間の授業をすべて振り返ることは時間的にも困難であるため、ティーム・ティーチングにおけるサブの教師の動きや児童生徒の活動に絞ったりするなど授業者で特に次時に向けて改善を図りたい点に焦点化し、ポイントを決めてビデオを早送りで見たり、授業の展開の一定の時間のみを抽出したりするなどの工夫を行っている。

ビデオによる分析を行うことにより、授業中には気付かなかった教師の言葉掛けや児童生徒へのかかわり方を客観的に把握したり、集団の中でどのように児童生徒同士がかかわっているのか分析的にとらえたりすることができる。このような取組を教師集団で行うことは、指導法等に関する学び合いの場ともなり、授業改善や教師一人一人の力量の向上にもつながる。



写真17 ビデオによる授業分析の様子